第５学年　総合的な学習の時間　学習指導案

草津市立老上西小学校
教諭　谷口　弦太

１．単元名　　「びわ湖からのメッセージ」

２．単元の目標

・自分とびわ湖のつながりに気づき、愛着を持ち、魅力や課題、自分たちにできることを主体的に発信しようとする。（知識及び技能）
・びわ湖の現状を知り、魅力に気づいたり、課題を解決したりするためにできることを考える。（思考力，判断力，表現力等）
・びわ湖に興味を持つだけでなく、魅力や大切さに気づき、自ら関わろうとする。（学びに向かう力，人間性等）

３．単元について

（１） 教材観

本単元では、「びわ湖からのメッセージ」をテーマとして、びわ湖の環境について学び、びわ湖の「固有種や外来種などの生き物」、「水草やヨシなどの植物」、「マイクロプラスチックなどのごみ」などを教材として取り上げる。

第５学年では、フローティングスクール学習において、学習船うみのこに乗り、宿泊を伴う環境学習をおこなっているが、それを出発点として、老上西小学校区の淡海環境保全財団の方々にも出前授業をしていただき、下水から汚泥肥料を作っていることや、ヨシを笛やペンに活用することを学ぶ機会を設けている。フローティングスクールでは、他校の小学生や養護学校など他校種の子どもたちとも交流する機会があり、交流を通して人とのつながりの心地よさや、関係を深めるコミュニケーションのスキル向上も図ることができる。

また、びわ湖環境学習で調べたことは、個人やグループでパンフレットにまとめ、他学年や家族、地域の人たちにも発信する機会を設けることで、より相手意識をもって活動するよさがある。

（２） 児童観

本学年の児童は、フローティングスクール学習において、学習船うみのこに乗り、宿泊を伴う環境学習をおこなっている。この学習を通して、他校の小学生や養護学校など他校種の子どもたちとも交流し、びわ湖の生き物や植物、ごみ問題などについて学んだ。また、淡海環境保全財団の方々にも出前授業をしていただき、下水から汚泥肥料を作っていることや、ヨシを笛やペンに活用することを学ぶ機会を設けた。

社会的な事象や身の回りの実態などから課題を見つけたり、友だちとの対話を通して考えを練り上げたりするなかで、具体的に実践することを考えられるようになったこの時期に本課題を取り上げる意義は大きい。

（３） 指導観

本単元の指導にあたっては、まず自分とびわ湖のつながりに気づくこと、びわ湖の現状を知ること、びわ湖の魅力や大切さに気づくことについて意欲をもたせたい。

次に、フローティングスクール学習や淡海環境保全財団の方々をゲストティーチャーとして招いた出前授業を経験し、より幅広く、深くびわ湖の環境について考える機会を設けることで、自分や自分たちにできることを考え、自らびわ湖環境保全に関わろうとする意欲をもたせたい。

そして、びわ湖環境保全について追究した課題について個人やグループでパンフレットにまとめ、内容を吟味し、見る人にわかりやすい文章にしたり、図や絵を描いたりすることで、相手意識をもった活動にもつなげたい。

さらには、近くの大型スーパーでパンフレットの説明を交えながら買い物に来られた地域の方々に配布することで、調べたことや学習したことを広げ、発信し、児童の学びや本単元の学習がびわ湖の環境保全に役立っていることを実感させたい。

（４） ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

連携性…びわ湖の環境は様々な立場の人たちが関わり守られている。
相互性…下水汚泥から肥料をつくるなど、資源として活用し、良い循環を生み出している。
責任性…未来にびわ湖をつないでいくのは、ここに住む自分たちの使命でもある。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力
びわ湖の自然環境が美しく保たれるために、わたしができることは何かを考え実行する。
批判的に考える力
パンフレットを作成するなかで、だれかが見てもおかしな表現ではないことや、著作権侵害になっていないかを考える。
他者と協力する態度
パンフレットを作成するなかで、グループのだれの記事を採用して一つにまとめるのか、だれもが見やすいものになっているかを話し合う。
進んで参加する態度
環境保全のイベントや教室への見方や参加の仕方を考える。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

自然環境、生態系の保全を重視する。
美しいびわ湖の自然や風景を大切に守っていくためには、自分たちの感覚をよりエコなものに変える必要もある。

幸福感を大切にする。
いつの時代もだれもが幸せに生きたいという願いをもって、「豊かなくらし」を追い求めている。

・達成が期待される SDGs

６　水と衛生
１２　生産と消費
１４　海洋資源
１７　グローバル・パートナーシップ

４．単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①びわ湖の生き物や植物、マイクロプラスチックなどのごみ問題などの知識について理解している。 ②学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらを関係づけながらまとめる技能を身につけている。	①びわ湖の環境についての気になる課題を見いだし、課題解決の方策を考えている。 ②びわ湖の環境について学んだことをパンフレットに表現し、より見やすく、わかりやすくまとめている。	①びわ湖の環境について、課題意識を持ち、意欲的に自分ができることを模索しようとしている。 ②淡海環境保全財団の方からびわ湖いついて学んだことを進んでパンフレットにまとめようとしている。 ③びわ湖の環境について調べたことを他学年や家族、地域の人たちにも発信しようとしている。

５．単元の指導計画（全１４時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（○） 備考（・）
①	・私たちにとって「びわ湖」とはどのような役割を果たしているのかを考える。	・パワーポイントや動画など、過去や現在のびわ湖環境保全活動を紹介し、イメージしやすくする。	
②	・びわ湖について自分が気になる課題を見つける。	・フローティングスクール学習を想起させながら、調べてまとめられそうな課題例を提示する。	ア① （知・技）
③	・淡海環境保全財団の方より出前授業をしていただく。	・できるだけ少人数で聞けるように２学級に分けて同じ授業を２回していただく。	ウ② （主体的）

④	・フローティングスクール学習や出前授業から、自分に合った課題を考え、まとめ始める。	・最初からグループだと、結果的に参加できない児童が出てくるかもしれないので、まずは個人で考える。	イ① （思判表）
⑤	・どのような課題を調べているかを学級で共有する。	・より多くの課題が出るように環境とのつながりを意識した声かけをする。	
⑥	・個人でパンフレットにまとめる。	・悩んでいる児童には無理のない範囲での適切な指導をする。	ア② （知・技） イ② （思判表）
⑦ ～ ⑩	・グループに分かれて、他学年や家族、地域の人に配布するためのパンフレットを作成する。	・学級での課題に偏りがないようにできるだけ調整する。 ・パンフレットに使う写真は著作権に引っかかる可能性があるので、手がきを基本とする。 ・印刷しやすいパンフレットのかき方にする。	ウ① （主体的）
⑪	・パンフレットを配布するときの説明の仕方を練習する。	・他学年や地域の人にも分かりやすく、簡潔に話せるように指導する。	ウ③ （主体的）
⑫	・グループでまとめたパンフレットを他学年や家族に説明を交えながら配布する。	・カラー印刷することで、より分かりやすく、大量に作る。	ウ③ （主体的）
⑬	・近くの大型スーパーで、同じようにパンフレットを配布する。	・学年の全児童が行くと安全上問題があるので、学年代表十数名が参加し、その様子を後日学級で確認する。	ウ③ （主体的）
⑭	・学級での発表会を行い、学習のまとめをする。	・学びのつながりや広がりや深まりを大切にする。	